

## Shared decision making 〈SDM〉 の今・これから

### : 診療ガイドラインの新たな可能性を考える

日時 : 平成 28 年 2 月 24 日(水) 13:00~16:10 (12:45 受付開始)

場所 : 京都大学東京オフィス (品川インターシティ内)

〒108-6027 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 27 階

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.html>

代表者: 中山健夫(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授)

後援 : 公益財団法人日本医療機能評価機構 Minds

#### < 主旨 >

今日の医療において医療者と患者の協働的な関係づくりは大きな課題であり、そのキーワードの一つとして”shared decision making 〈SDM〉”への関心が高まっています。本シンポジウムでは、SDMをめぐる国内外の動向を概観し、SDMを可能とする上で重要なコミュニケーションの方法、「患者の医療者の意思決定の支援 (Minds 2014)」を目的とする診療ガイドラインの役割など、第一線の研究者と実践者からの報告をもとに、関心を持つ方々と広く意見交換を行いたいと願っています。

.....

#### < 第 1 部 > 13:00-14:20

1. 厚生労働省医政局 ご挨拶
  2. 根拠に基づく医療、診療ガイドライン、そして SDM: 中山健夫 (京都大学大学院 教授)
  3. 特別講演
    - 3-1 SDMと意思決定支援: 中山和弘 (聖路加国際大学 教授)
    - 3-2 薬物療法における SDM(仮): 山本美智子(昭和薬科大学 教授)
- 休憩 10 分-

#### < 第 2 部 > 14:30-16:10 座長: 杉森裕樹(大東文化大学 教授)、中山健夫

4. 様々な医療の場における SDM の試み
  - 4-1. SDM と診療ガイドラインの融合を考える: 藤本修平(京都大学大学院博士後期課程)
  - 4-2. 脳卒中リハビリテーションの立場から: 今法子(河北リハビリテーション病院)
  - 4-3. 地域医療の立場から: 大浦智子(星城大学リハビリテーション学部 講師)
  - 4-4. がんケアの立場から: 瀬戸山陽子(東京医科大学医学部看護学科 講師)
5. シンポジウム「SDM: 何を・どのように共有するのか?」

患者と意思決定を共有するプロセスにおいて、何を共有する必要があるか、そのコミュニケーションで重要な要素、プロセスは何か、シンポジスト間、そしてフロア参加者の意見交換により議論を深める。

シンポジスト: 藤本修平、今法子、大浦智子、瀬戸山陽子

特別発言: 中山和弘、山本美智子

※ 事前登録は不要です

※ お問い合わせ先 E-mail : [healthinfo\\_sec@umin.ac.jp](mailto:healthinfo_sec@umin.ac.jp)